

平成28年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる21世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2）基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3）自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4）基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5）教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6）学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7）○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に図ることで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

【若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成
- ・学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】

～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。
- ・分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。
- 自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康（保険安全・食育）・体力】

～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
学 校 運 営 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、今の学校が好きです」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 85.3%	居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 クラスの友人との関わりを楽しむ活動や一人一人に役割がある活動を工夫し、互いに励まし合うことのできる学級づくり、集団づくりを行う。	A	【達成状況】 「今の学校が好きです」の肯定的評価が85.3%で、数値目標の85%を上回っている。 【次年度の方針】 ・互いの良さを認め合う活動をさらに推進しながら、具体的目標を明確にして学びに向かう集団づくりを実践していくことにより、互いに励まし合い、認め合うことのできる学校づくりを目指す。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 92.2%	○学習や活動のねらいを明示し、授業の中で、できた喜びや成就感を実感できる場や機会を意図的に設け賞賛する。 「できた」「わかった」という喜びを味わわせる授業を展開し、取組の課程や結果を具体的にほめたり、励ましたりする。		【達成状況】 「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」の肯定的評価が92.2%で、数値目標の90%を上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人の実態に即した適切な指導・支援ができるよう、校内研修の充実を図り、教職員の指導技術及び資質の向上等の「教師力」を高めていく。

A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 81.8% A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 84.0% A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は「いじめ」は許されないことを熱心に指導してくれる。 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 93.6% A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは、適切に実施されている」 ⇒ 保護者の肯定的回答 95%以上 → 95.5%	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくよう協力の要請 「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員が指導内容を明確に把握し、毅然とした指導を行う。 ○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科における習熟度別学習やＴＴなど指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始まりに授業のねらいや身に付けたい力を示し、生徒に目標をもたせるとともに、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。 毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やチャンス相談、及び「いじめ調査」を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 生徒一人一人に存在感や達成感を与えるとともに、思いやりの心や規範意識を高めることで、いじめの未然防止に努める。 校務運営委員会で行事などの日程調整とともに校務分掌の進捗状況等を話し合う場を設けることで、教育課程表の適切な実施に努める。 「学校行事に全力で取り組むことができる」という本校の特徴を生かせるよう、生徒が主体的に活動できるような教育課程の編成に努める。	【達成状況】 「生徒は、授業と生活の決まりやマナーを守って生活している」の肯定的評価が 81.8%で数値目標を上回った。教職員の肯定的評価についても 62.2%→86.0%と大きく増加しており、課題が改善されつつあると捉えている。 【次年度の方針】 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科化を視野に入れた道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。 【達成状況】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」の肯定的評価は 84.0%で、数値目標の 85%を下回っている。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人に適切な支援を行うため、ＴＴや少人数学習の充実を図り、さらなる学習指導の工夫・改善を目指していく。 ・保護者の肯定的評価が 65.2%と低いことを踏まえ、学校での授業の様子等を学年通信等で積極的に発信するとともに、授業参観への積極的な参加を促していく。 【達成状況】 「先生方はいじめは許されないことを熱心に指導してくれる」の肯定的評価は、93.6%で数値目標の 95%を下回っている。 生徒の肯定的回答はかなり高い数値が出ているが、保護者の回答は 51.6%と低く、学校での取組がまだ理解されていない。 【次年度の方針】 ・学校がいじめ対策について、保護者会や生徒指導便り、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。 【達成状況】 「学校の日課・授業・行事などは、適切に実施されている」の肯定的評価は 95.5%で数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・本校の実態や課題を踏まえ、生徒一人一人にとって有効で自己存在感を高めることができるような適切な教育課程の編成に努める。
---	---	---

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒ 保護者及び地域住民の肯定的回答 90%以上 → 92.6%（保） 91.7%（地）	各種たよりやホームページを生かし情報を積極的に発信し、保護者・地域との連携を推進する。 ○小中一貫教育についても理解していただくための情報の提供とともに、オープンスクール等を利用して地域に対して授業を公開し、中学校教育への理解を深めてもらう。	【達成状況】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」の保護者・地域住民の肯定的評価は 92.6%、91.7%で数値目標をどちらも上回っている。 【次年度の方針】 ・次年度も各種便りやホームページ、校門付近に設置してある掲示板等の積極的な活用により保護者、地域住民への情報発信に努める。 ・小中一貫教育についても、地域として取り組んでいることを積極的にPRしていく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒ 保護者および地域住民の肯定的回答 85%以上 → 87.1%（保） 100.0%（地）	若松原中学校地域協議会との連携を密にし、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することで、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	【達成状況】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の肯定的評価は、保護者 87.1%、地域住民 100.0%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・地域協議会の組織の改善を図りながら、地域の方に本校生徒の良さと課題を共有していただき、本校生徒の実態に即した適切な連携の在り方を探っていく。 ・1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」では、家庭・地域との連携を強化し、より効果的な学習が展開できるように努力していく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上 → 84.7%	生徒会整美委員会を中心に、定期的な清掃強化週間を設けたり、校内美化に向けた呼びかけを行ったりして、生徒自身の校内美化に対する意識を高める。 計画的な修繕を実施するとともに、PTA 奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。	【達成状況】 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」の保護者の肯定的評価が 84.7%で数値目標の 85%より下回っている。 【次年度の方針】 ・開校 35 年目を迎え、施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・日頃の清掃活動については、その方法の改善を図りながら、さらなる充実を図っていく。 ・PTA には奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。 ・地域協議会に対しては、本地域ならではの強みを生かした学校バラ園・花壇の整備等の協力を引き続き依頼していく。

教育活動の状況	生	A10 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒はあいさつをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 86.9%	生徒会執行部や生徒会生活委員会を中心とした「あいさつ推進活動」を実施し、生徒相互にあいさつがしあえるよう校内の雰囲気づくりを推進する。 地域協議会健全育成部会と連携し、全校一斉下校の日の下校指導を実施し、地域の方とのあいさつをきっかけとしたコミュニケーションを図る。 ○学校生活のあらゆる機会を捉えて T. P. O. に応じた正しい言葉づかいができるように指導を徹底する。	【達成状況】 「生徒はあいさつをしている」の肯定的評価が 86.9%で、数値目標の 90%を下回っている。 【次年度の方針】 ・あいさつを通してコミュニケーション力を育成するため、「地域学校園あいさつの日」の続行、「生徒会によるあいさつ運動」、「PTA あいさつ運動」をさらに強化し、生徒相互にあいさつがしあえるよう校内の雰囲気づくりを推進する。 ・地域協議会との連携による下校指導を通して、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。
	活	A11 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は正しい言葉づかいをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 77.4%	学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、家庭と協力して正しい言葉遣いができるよう指導していく。	【達成状況】 「生徒は正しい言葉づかいをしている」の肯定的評価は 77.4%で数値目標の 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・教職員の意識を高め、授業中、休み時間等学校生活のあらゆる機会を捉えて正しい言葉遣いを指導していくとともに、学校便りや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、協力して正しい言葉遣いができるよう指導していく。 ・言葉遣い強調週間を設け、生徒及び職員の意識を高める機会とする。
	健康	B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、本（読書）が好きになった。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 76.5%	学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 読書の醍醐味を伝える活動を強化するとともに、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	【達成状況】 「自分は、本（読書）が好きになった。」の肯定的評価は 76.5%で数値目標の 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・H26 年度から、朝の読書の時間を毎朝確保していることが生徒の肯定的評価の安定につながっている。 ・保護者の評価が、54.2%と相変わらず低いので、図書便り等を通して、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。
	体力	A12 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 ・全体アンケートの「自分は休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 77.9%	保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 持久走大会に向け、個人の目標を設定することで、主体的に運動に取り組むきっかけとする。	【達成状況】 「自分は休み時間や放課後などに進んで運動している」肯定的評価は 77.9%で数値目標の 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・昼休みや放課後の運動について、生徒への呼びかけをしていく。小中一貫教育で、小学校から継続していく運動についても検討していく。

学 習	A13 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 75.1%	○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ○食べることの意義や、栄養のバランスをとる必要性を理解させる。 生徒や教職員に対し、リクエスト給食を実施し、残食を減らす努力をする。	【達成状況】 「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」の肯定的評価が75.1%で数値目標の80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切なことであるという知識としての食育に加え、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・献立表や給食便り等を活用し、保護者への啓発を行うとともに協力を依頼し、連携しながら食育の充実に努める。
	B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 92.0%	学級活動や給食だよりを通して、食の大切さを理解させるとともに各家庭へも協力を依頼する。 地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	【達成状況】 「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」の肯定的評価は92.0%で数値目標の95%を下回っている。 【次年度の方針】 ・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ・地域学校園が連携しながら「お弁当の日」等の実践を通して、小学生のうちから食への意識を高めていく。
	A14 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 86.1%	「学力の向上」に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。 生徒が意欲的に取り組むための授業づくりを常に心がけ、「わかる授業」の確立を目指す。	【達成状況】 「生徒は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」の肯定的評価が86.1%で数値目標の80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・学習指導主任を中心に、本校の実態に合わせて探求型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践しながら、生徒の将来の自己実現に向けた指導を心がける。
	A15 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 76.9%	○教材や発問、話し合う場の設定の工夫をし、進んで学習に取り組む態度を育てる。 ○生徒一人一人に即した授業を展開し、学業指導の充実を目指す。	【達成状況】 「生徒は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」の肯定的評価は76.9%で数値目標の80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・定期的に授業研究会を実施するなど、教科部会のさらなる充実を図り、お互いの教師力の向上を目指す。 ・「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」をさらに充実させるため、効果的なグループ活動や話し合いの場を設定するなど、本校の実態に合わせたアクティブラーニングの在り方を研究していく。

	B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 83.5%	学級委員に「時間を守ろう」などと呼びかけさせ、生徒が主体的に行動できるようにする。 各クラスのリーダーを育成することを通じて生徒自ら主体的に行動できるように、共通理解を図りながら、指導を繰り返していく。	【達成状況】 「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」の肯定的評価が83.5%で数値目標の80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・時間を守ることの大切さを随時指導し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に行動できるように、共通理解を図りながら、指導を繰り返していく。
本校の特色・課題等	B4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たせた。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 95.7%	学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	【達成状況】 「自分は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たせた。」の肯定的評価が95.7%で、数値目標の80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事が実践されるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人ひとりが主体的に活動できるような場を設定する。 ・生徒に達成感、自己存在感を味わわせるような指導の工夫を図る。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- アンケートから概ね良好と考えられること（教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が80%を超えている項目）
 - ・学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。
 - ・学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。
 - ・学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。
 - ・生徒は、毎日朝ごはんを食べている。
 - ・生徒は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たしている。
- アンケートから分かる課題と考えられること（教職員・保護者・地域住民・生徒のいずれかの肯定的回答が70%未満の項目）
 - ・「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」については、習熟度別学習やITの授業の充実などにより、生徒一人一人の実態に即した授業を展開するなど生徒一人一人に適切な支援を行うための、さらなる学習指導の工夫・改善をしていく必要がある。
 - ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」については、教職員と保護者に大きな開きがあるので、学校がいじめ対策について、保護者会や生徒指導便り等、あらゆる機会を利用して周知していくことやいじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく必要がある。
 - ・「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている」については、教職員の意識を高め、授業中、休み時間等学校生活のあらゆる機会を捉えて正しい言葉遣いを指導していくとともに、学校便りや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、協力して正しい言葉遣いができるよう指導していく必要がある。
 - ・○「生徒は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している」については、生徒と保護者、地域住民の肯定的回答に開きがあるので、学校での授業の様子等を学年通信等で積極的に発信するとともに、授業参観への積極的な参加を促していくことで保護者に周知したり、学校開放の機会等を通じて、地域の方に啓発したりしていく必要がある。
 - ・「生徒は、本（読書）が好きになった」については、生徒自身の評価に比べ、保護者の評価が低いので、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。

6 学校関係者評価

- ・アンケート結果を見ると概ね良い結果であると見ます。また、比較的保護者が辛口の評価が見えますが、良い方向であると思います。生徒達は落ち着いた環境で学習しているように感じています。
- ・全体的に高い評価で成果が見られます。
- ・全体的に肯定的評価が高く、生徒は充実した学校生活を送っている様子がわかります。
- ・地域協議会の各部会の取組の充実はずばらしい。コーディネーターの力が発揮されていると思います。
- ・中学生は、大人や保護者が思っているより大人になっていると思います。若中の生徒は、部活動の実績も高く、将来がとても楽しみです。
- ・校外を走っているのが危険ではないか？という話も出ていますが、心配しすぎではないか？と思う。成長していくためには、考えて行動する力も身につけてほしいと思います。
- ・そば打ち教室の片付けの時に、バレエ部員の生徒にゴミステーションの場所を訪ねたところ「自分が処分します」と言って処分してくれました。とても感動すると共に選手としてだけでなく、日頃の行動が大会の結果に表れているのだなと思いました。とても感動し、大人も見習うところがあると感じました。
- ・学校は全体に明るく活気があると思います。また、地域とも積極的に交流を図っていると思います。
- ・教職員は生徒に対し愛情をもって指導していると思います。学校運営も良好であると思いますので、今後も、生徒の指導、よろしくお願いします。
- ・毎日見ているわけではありませんが、学校全体に活気があるように感じます。
- ・ここ数年、全体として学校は良い方向に行っていると思いますが、地域協議会をもう少し本来の魅力ある学校づくりについての話し合いの会議にしてもらいたいと思います。
- ・No5「いじめについて」

「生徒が担任に相談したが、その事実を重要視しなかったため？又は忙しさのためか、問題がおざなりになっている」「学校はいじめが起きていることを隠している」などの話を耳にすることがあります。そのため、保護者の評価が低いのかもかもしれません。先生方の報告、連絡、相談の充実。保護者や地域への情報発信をお願いします。
- ・生徒は、外部の来校者にも元気よくあいさつしてくれます。一方で教職員の中には、廊下ですれ違ってもこちらからあいさつしないと無言の方もいるので驚きました。
- ・保護者が参加、見学するような学校行事（体育祭、文化祭）は、できる限り土、日に実施するのが望ましいと思います。保護者は仕事を持っているというのが前提で、授業参観とは違った我が子やクラスの状態を確認するためには、一般的に考えて土、日に実施した方が保護者は参加しやすいと思います。
- ・朝のあいさつ運動について

毎朝、家の前を通る生徒達におはようと声をかけますが、返事があるのは、7～8人のうち1人か2人です。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校評価について、生徒・保護者・地域住民の多くの方々から回答をいただき感謝しております。本校では、前年度の学校評価をもとに改善を進めてまいりました。その結果、多くの項目で評価対象数値が目標を達成することができました。もちろん、回答の中には厳しいご意見もございましたが、それらについては皆様からの期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力してまいります。

今年度は特に、No1「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、No5「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」の2項目についてご意見をいただきました。

No1については、教職員、保護者、地域、生徒とも肯定的回答が高く、学校関係者の方からも高い評価をいただきました。これは「生徒の生徒による生徒のための活動」が定着しつつあり、その成果の表れだと思います。次年度以降も互いの良さを認め合う活動をさらに推進しながら、具体的目標を明確にして「学びに向かう集団づくり」を実践していくことにより、互いに励まし合い、認め合うことのできる学校づくりを目指していきたくと考えています。

No5については、教職員や生徒の肯定的回答は比較的高いものの、保護者や地域の方の肯定的回答は比較的低い物でした。学校では、定期的にいじめに関するアンケートを実施したり、職員研修を行ったりしているものの、その情報発信が不十分であったと反省しております。次年度は、これまで以上に保護者会や生徒指導便り、学年通信等、あらゆる機会を利用して本校のいじめ対策について周知していくと共に、いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべきものであることを機会あるごとに啓発していきたくと考えております。

○その他、あいさつについての回答も頂きました。「家の前を通る生徒達におはようと声をかけるが、返事があるのは、7～8人のうち1人か2人である」というご意見がありました。このことについては、「地域学校園あいさつの日」の続行、「PTA あいさつ運動」、地域協議会との連携による下校指導などを通して、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信

し、地域全体であいさつの機運を高めていきたいと考えています。

今後も、保護者や地域の皆様に対して「より透明性の高い開かれた学校」を目指し、本校生徒の良さや成果を発信していくと同時に改善すべき課題や学校運営上困っている点なども示しながら「地域に根ざした愛される学校」を目指したいと考えております。今後も皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。